

伴野豊の絆レポート



伴野豊の活動報告

皆さん、こんにちは！伴野豊です。まず皆さんにご報告があります。五月八日午前八時より、新しいブログを開設致しました。<http://bannoyutaka.jp/blog/>でアクセス出来ますので是非ご覧ください。4月1日から、活動を本格的に再開し、知多半島を中心にコツコツ歩いて行く中での様々な出会い、ふれあいを通して感じたことを素直につづったものです。素の伴野豊をご理解頂けるのではないかと、是非、ご覧頂き、ご感想をお聞かせ頂ければ幸いに存じます。

伴野豊の気になる国土交通・鉄道政策

伴野豊が国土交通副大臣あるいは国土交通委員長時代に手がけた様々な政策、事業の中で、実現しつつある具体例は前号でご紹介致しました。今回は、伴野豊が外務副大臣時代、得意分野である国土交通政策と外交戦略とを融合させて、世界に向けて働きかけた「日本のインフラ輸出戦略」について、お話しさせて頂きたいと思っております。新興国はじめ多くの国々が、日本に期待するインフラは、3.11以前はまさしく原子力発電所でした。それが、3.11以降、原子力発電所の現状を鑑み、日本に一番期待するインフラは、鉄道になってきているものと思われまます。数々の国際会議の合間を縫って行われた二国間会議では、私の経歴を事前にリサーチした上で、鉄道整備事業はじめ社会資本整備事業への協力を求めてきました。そうした時、日本のライバル国と比較した上で、我が国の社会資本整備力の優位性はその維持管理力にあることを機会ある毎に説かせて頂きました。社会資本整備力をその計画力、建設力、維持管理力の三つの側面でザクッと比較してみます。計画力は時の政治力によるところもあり、中々、単純比較は出来ませんので、別の機会に譲ります。二つ目の建設力は、労働賃金及び労働力、契約方式などの国際性により、日本は技術力では優位にあるものの、それらの課題があるため残念ながら、現在のところ、建設力全体において十分な優位性があるとは言えません。最後の維持管理力。これは我が国が長年地道に培って来た力です。インフラのアフターケアとも言うべき分野であり、国民性、生活様式、文化、思いやりにも通ずる力です。日本が最も得意とするところ、ライバル国に対して絶対的優位にあり、世界的に最も評価されている、されるべき力です。その典型が、鉄道における維持管理力であり、それ故、各国が日本の鉄道を求めて止まないのです。在来の鉄道は言うに及ばず、新幹線、リニアへの期待も大変大きいものがあります。この日本の誇るインフラの維持管理力は、今年度から始まった東海道新幹線の老朽劣化対策や、高速道路はじめ様々なインフラの老朽劣化対策よっても、ますます向上することは必至であり、国際貢献、国際協力において最高の手段のひとつになり続けることは間違いないと確信しております。

伴野豊の気になる本



今回の伴野豊の気になる本は、村上春樹著「色彩を持たない多崎つくると、巡礼の年」です。鉄道会社勤務。土木工学科卒。駅。技術者。哲学・珈琲・クラシック音楽好き。これは、主人公「多崎つくると」の設定です。どこか皆さんと共通点がありそうじゃないですか。「新鮮なコーヒーの香りがした。夜と昼とを隔てる香りだ。」珈琲好きにはタマラナイフレーズ。村上春樹ワールド健在ってところですか。知多半島も出てきてビックリ。結構早い段階で「知多半島まで泳ぎに行ったり」って感じで、出てきます。名古屋と東京が主な舞台です。男三人女二人計五人の仲良し組。自分探しの旅。自分は何なんだ。昔の友人に再会しながら、相手と話すことで今の自分を探す。見つける。確認する。自問自答する。生きることへの応援歌。読み終えた直後の素直な感想。単純に楽しめます。(定価：本体 1,785 円)



(本の表紙です)

伴野豊事務所 半田市青山 2-19-8
 TEL : 0569-25-1888 FAX : 0569-25-1881
 E-mail: office@bannoyutaka.jp
 HP : bannoyutaka.jp

衆議院愛知第8選挙区：半田市・常滑市・東海市・知多市・

阿久比町・東浦町・南知多町・美浜町・武豊町

